

高校生による橋梁点検体験実習を実施しました ～～近接目視、打音検査等を体験～～

平成26年10月7日、山形県立酒田光陵高校の生徒により、酒田市北新橋地内の「新井田川橋(下り)」において、近接目視や打音による橋梁点検実習を実施しました。

平成26年7月1日より国土交通省令が施行され、トンネル・橋等の点検は、点検の質を確保するため、近接目視により5年に1回の頻度で定期点検を実施することになりましたが、多くの市町村や企業においては、技術者の不足や、専門的な技術力の不足などが大きな課題となっております。



このため、道路インフラのメンテナンスに将来関わりが期待される土木技術系の高校生を対象に、維持管理の現状や老朽化対策について理解を深めていただくため、身近な橋梁における橋梁点検体験実習を実施したものです。

■参加者：山形県立酒田光陵高等学校 環境技術科 3年生 10名

■主催：山形県道路メンテナンス会議庄内地区会議

■点検橋梁：一般国道7号「新井田川橋(にいだがわばし)下り」 ※酒田河川国道事務所管理
橋長47.5m、幅員12.3m(2車線)、橋梁形式＝単純鋼合成鉄桁橋
竣工1972(S47)年、築42年経過

■実習内容：①点検ハンマーを使用した打音による橋台(下部工)の点検
②橋梁点検車を使用した近接目視による床版のひび割れ状況確認
③近接目視による鋼桁や支承等の腐食状況確認



▲酒田河川国道事務所職員による老朽化対策の概要説明



▲橋梁点検車による床版ひび割れ状況確認



▲橋面舗装のひび割れ状況確認



▲鋼桁及び支承の腐食状況確認